

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和04年05月12日

計画の名称	賑わいと躍動のある公園づくり												
計画の期間	平成28年度 ～ 平成32年度 (5年間)										重点配分対象の該当		
交付対象	富士市												
計画の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・富士川右岸緑地および富士川左岸緑地は、富士山を望める場所として、眺望を活かしたスポーツによる観光を推進していきたいことから整備が急務となっている。富士川右岸緑地は野球場を整備し、富士川左岸緑地は既存施設の再整備を行うことで、兩岸の一体的な利用促進を図っていく。 ・比奈公園のあるこの地区は、かぐや姫の伝説や湧水地があることから「ロマンと泉の郷」と呼ばれ、市外からの来訪者も多い。その中心にある公園として観光の観点からも整備を推進していく。 ・富士西公園は週末になると多くの家族連れが利用する人気のある公園である。新東名高架下で未整備の箇所があるため、駐車場が不足していることから早期に拡張を図っていく。 												
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	904	A	904	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (H28当初)	中間目標値 (H30末)	最終目標値 (H32末)
1	・都市公園の整備促進を図る。(1人あたり都市公園面積をH32年末で8.40m ² としたい。) 1人当り公園面積 (m ² /人) = 都市公園面積 (m ²) / 都市計画人口 (人)	8m ² /人	8m ² /人	8m ² /人
2	・富士川右岸緑地・富士川左岸緑地の施設利用者数の増加を図る。(22万人/年(H28)から23万人/年(H32)に増加させたい。) 富士川右岸緑地・富士川左岸緑地の利用者数を計測する (万人/年)	22万人/年	22万人/年	23万人/年

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

A 基幹事業																				
基幹事業（大）	番号	事業	地域	交付	直接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名／ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
		種別	種別	対象	間接							H28	H29	H30	H31	R02				
一体的に実施することにより期待される効果																				
備考																				
都市公園・緑地等事業	A12-001	公園	一般	富士市	直接	富士市	—	—	都市公園事業（富士川右岸緑地）	公園整備 A=9.1ha	富士市	■	■	■	■		325		—	
	A12-002	公園	一般	富士市	直接	富士市	—	—	都市公園事業（富士川左岸緑地）	公園整備 A=29.7ha	富士市					■	■	245		—
	A12-003	公園	一般	富士市	直接	富士市	—	—	都市公園事業（比奈公園）	用地取得・公園整備 A=2.1ha	富士市	■	■	■	■	■		334	5.71	—
											小計							904		
	合計																			

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制		事後評価の実施時期	
事業主体により実施		令和4年4月	
		公表の方法	
		富士市ウェブサイトによる	

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	都市公園事業（比奈公園）は、用地の取得に遅れが生じたものの、施設整備が順調に推移したことで市民に身近な都市公園面積が増加した。また、都市公園事業（富士川右岸緑地）では野球場が供用開始され、都市公園事業（富士川左岸緑地）の施設整備も進んできたことから、富士川緑地として、多くのスポーツイベント等に対応するための体制が整ってきている。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	

○特記事項（今後の方針等）

都市公園事業（富士川左岸緑地）は、令和3年度以降も新たな整備計画に基づき事業を継続し、富士山を望むロケーションを活かしたスポーツ観光の拠点として、整備を進めて行く。また、都市公園事業（比奈公園）も同様に事業を継続し、地区の文化に配慮した整備を進めて行く。なお、都市公園事業（富士西公園）は、富士市地域防災計画による広域避難地に位置づけられており、防災上の観点から、整備の進捗による収容可能人口を増加させるため、別途計画により事業進捗を図ることとする。

○目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値／実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	最終目標値	8m ² /人	比奈公園の整備が進捗したことに加え、当計画以外の都市公園でも整備が進んだことで、1人あたり都市公園面積が8.63m ² となり、目標を達成することができた。
	最終実績値	9m ² /人	
2	最終目標値	23万人/年	利用者数の増加により平成30年には26.5万人を超えているが、令和元年以降、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴うスポーツイベントの中止により減少した。令和2年に10.5万人を数えた後、スポーツイベントなどの再開に伴い増加を続けているものの、目標に到達することはできなかった。
	最終実績値	15万人/年	